

〔Ⅱ〕「一宮の魅力ある海岸づくり会議」の取組み（千葉県）

■ 取組みの概要・背景

一宮海岸を含む九十九里浜の侵食に対して千葉県は昭和 63 年から T 字型の人工岬（ヘッドランド：HL）を数百メートルおきに設置する工事を進めてきた。一方、一宮町は多くの近隣市町村が人口減少傾向にある中で、東京への通勤も可能な交通環境を兼ね備えることにより、サーフショップの集積や、人口増加が進んでおり、町もこうした沿岸部の魅力を生かした町づくりを指向している。

現在、T 字型人工岬のうち、縦堤部分は整備され、横堤の設置が進められている。この横堤により、侵食低減効果の向上が計れる半面、堤付近の流れが強くなり、海岸利用に対する危険性が増すことなどが危惧されている。こうした状況のもと、サーフィン関係者を中心として工事内容の再検討を求める声が高まり、「一宮の魅力ある海岸づくり会議」が設置され、国土保全とサーフィンを含む多面的な沿岸環境の保全を両立しうる手段に対する検討が進められている。さらに沿岸域の魅力を生かしたまちづくりにつなげようとする「海岸利用計画検討委員会」も設置され検討が開始されている。

■ この取組みで行われた沿岸管理の総合性

- ・ HL 工事に関する多様な利害関係者間の合意形成を目指す検討の場が、海岸法改正後の県の海岸保全基本計画での位置付けのもと、県と町の主催によって開催されている。
- ・ 専門家による海岸構造物や海洋環境等の専門的知見の丁寧な提供により、多面的な問題に対する科学的理解の共有が進みつつあるなど、科学的理解や情報の共有に基づく、具体策の検討が行われようとしている。
- ・ さらにこの会議と並行して、「海岸利用計画検討委員会」が一宮町に設置され、沿岸域の利用調整等、総合的な地域振興を目指す検討が進められようとしている。

■ 成功のポイント

千葉県の住民会議に対する柔軟な姿勢

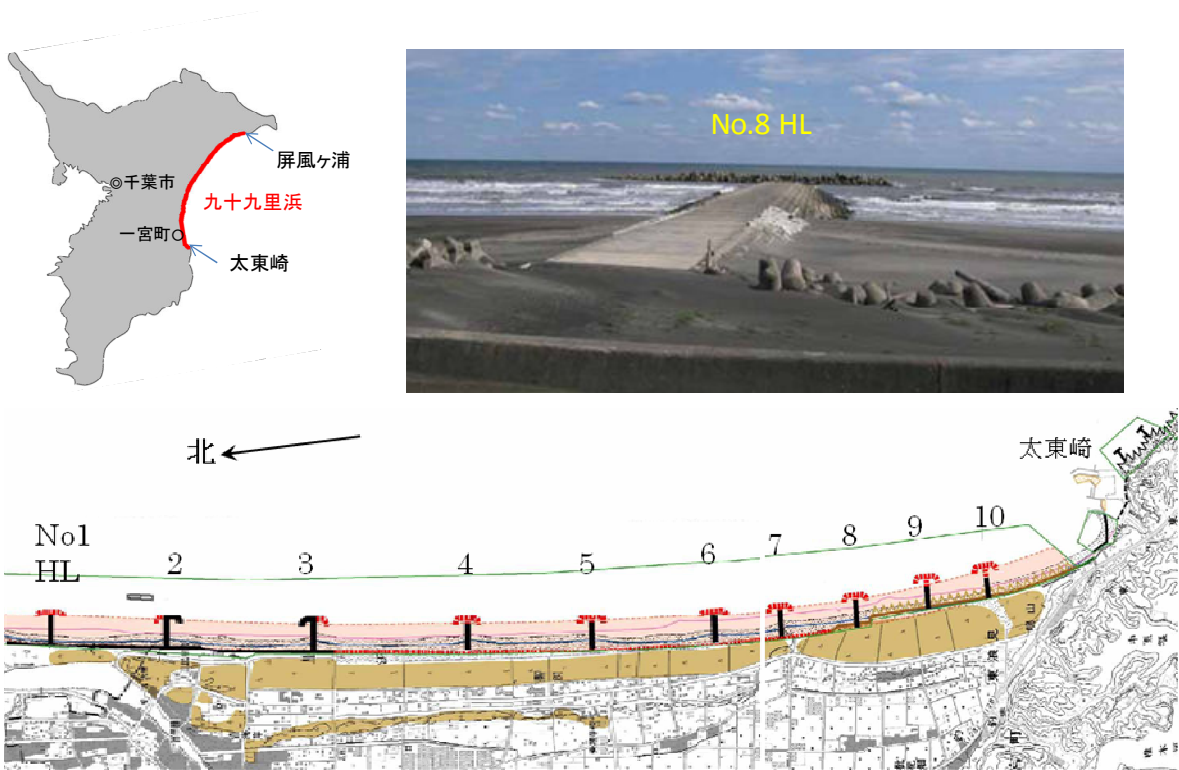
千葉県では、平成 11 年以降、沿岸地域住民との交流を通じてその意見を取り入れることで、多様な利害に応じた沿岸工事を実現する成功事例を重ねており、地域の意見を取り入れる基盤があった。

一宮町の住民合意形成に積極的な姿勢

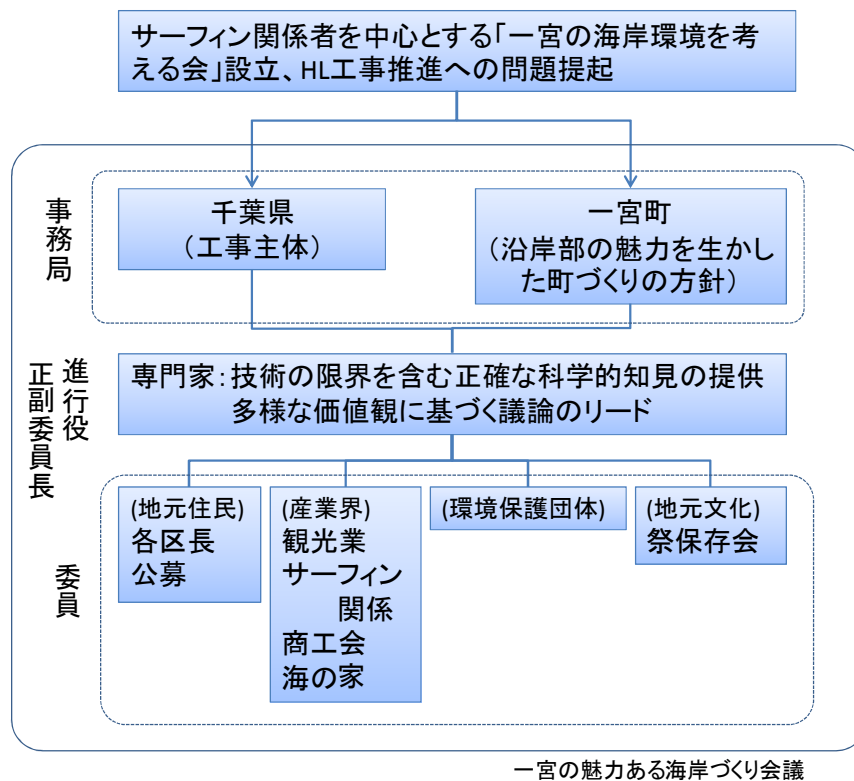
一般的に市町村は、県による土木事業の着実な推進を望む傾向があるなか、一宮町はサーフィンの適地という海岸環境を生かした町づくりの方針に基づき、県と地元意見の調整に積極的である。

学識経験者の巧みな議論の進行

類似の会議を数多く経験している専門家を会議の進行役に迎えている点が、成功要因として挙げられる。丁寧な科学的事実の説明や、威圧的な発言からも要点を抽出して議論を組み立てる、といった工夫が随所にみられる。巧みな進行により、怒声も飛び交う荒れた環境も乗り越えて、相互理解と意見の調整が進みつつある。



図：一宮海岸人工岬（HL）設置の概況（出典：千葉県ホームページをもとに作成）
 各 HL の黒部分は設置済み、赤部分は工事中、又は設置予定を示す。



図：一宮の魅力ある海岸づくり会議検討体制（現地調査結果をもとに作成）